Medical and Pharmaceutical Society for WAKAN-YAKU

I-B-11

卵巣機能不全不妊症における漢方薬の「証」の分布

假野クリニック

假野隆司

４３２例の卵巣機能不全不妊症の証を決定することで同症の病因を考察した。最も証の分布が多かったのは加味逍遥散（１９５例、４5.1％）で、次いで当帰芍薬散、桂枝茯苓丸の順であった。加味逍遥散の症例は重症例が、当帰芍薬散、桂枝茯苓丸の症例は軽症例が多い傾向が認められた。生児分娩を確認した８８例の正常妊娠例で最も例数が多かったのは加味逍遥散（３４例）であり、妊娠率が高かったのは当帰芍薬散（27.0％）であった。また流産率は温経湯、加味逍遥散で高率であった。正常妊娠者の６1.4％は卵胞機能賦活の目的で用いた薬物が漢方薬のみであった。以上の結果より、現代の卵巣機能不全不妊症の病因を漢方医学的に考察すると、ストレスに起因すると思われる心因性反応による中枢性卵巣機能不全と、瘀血に起因する骨盤内循環不全（骨盤内鬱血）が多いと考えられた。また、瘀血が原因の卵巣機能不全症には正しい証診断に基づく漢方薬が極めて有効と考えられた。

NII-Electronic Library Service